



Q₀ 岡義博法律事務所報 第37号

高松市丸の内7番20号 丸の内ファイブビル5階

T E L (087) 821-1300

F A X (087) 821-1833

MAIL oka-law@kln.ne.jp

H P <http://www.kln.ne.jp/oka-law/>

政 権 交 代

所 長 弁 護 士 岡 義 博

近ごろ一番大きなニュースといえば、民主党への政権交代だろう。夏の衆議院選挙で民主党は300議席を超える圧勝だった。自民党は3分の1近くに議席を減らしてしまった。この結果は民主党に対する期待を表しているものであるが、民主党に大いに期待しているというものでもないだろう。自民党があまりにひどいため、自民党にはまかせられない、1度民主党にやらせてみるかという国民の意思の表われだろうと思われる。

しかし、民主党の課題は多い。民主党は、脱官僚政治、政治主導を唱えている。確かにこれまでの政治は、官僚がお膳立をして、政治家はそれに乗っかっていただけであった。官僚には優秀な人材が多く、強固な組織もある。政策立案についての力が官僚の方が優っているのは明らかである。しかし、目指すべき国の方向性を示し、官僚を主導してゆくのが政治家の役目である。政治主導に改革しようとしている点は評価できる。

しかし、大事なものは政策の中味である。

重要な課題の1つとして景気対策がある。世界不況から1年。世界経済も日本経済もまだ立ち直っていない。景気の回復は目下の重要な課題である。麻生内閣は相次ぐ補正予算で景気回復をはかろうとしたが、民主党は補正予算の見直しをするという。財政支出によって、景気回復をはかるという点は同じと思われるが、どのような方面に重点的に財政支出をするのか注目したいところである。

不況の影響で雇用状況は悪化している。雇用の確保をどうするのか。少子高齢化社会がどんどん進行し、働き手が減少し、他方で年金支給や高齢者医療費が増加してゆく。日本の未来はどうなってゆくのか。50年後、100年後、日本に明るい未来はあるのか。民主党政権になっても日本の将来像は見えてこない。人口動勢や年代構成を考えた上で、日本の未来がどのようになるのかを示し、国民全体の問題として、議論をするという姿勢が重要である。民主党が日本の未来を示せない限り、また、政権交代は起きるであろう。



法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」テミス (Themis …ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します) を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

DV（ドメスティック・バイオレンス）があった場合、もちろん離婚原因となる。民法では離婚原因として、不貞行為、悪意の遺棄、3年以上の生死不明、回復の見込みのない強度の精神病が例示されており、それに加えて、その他婚姻を継続し難い重大な事由があるときは離婚原因となると定めている。配偶者からの暴力はもちろん、この婚姻を継続し難い重大な事由に該当する。

DVを原因として離婚する場合、通常、話し合いでは解決しないであろうから、裁判になる場合が多いであろう。裁判になった場合には、離婚を求める側が離婚原因を主張立証する必要がある。DVの場合、通常は妻が離婚を求めるのであろうから、妻が夫からの暴力があったことを主張立証することになる。この場合、前回述べた保護命令の申立をして、裁判所からの命令を得ておくことと主張立証が容易になる。保護命令の申立をした際の一式書類の中に、暴行があったことが示されており、また、裁判所が保護命令を出したことにより、

配偶者からの暴力があったことが既に認められているからである。

保護命令を得ていないDVの場合はどうか。暴力がある都度、日時、場所、暴力の内容、怪我の程度などを記録しておくことになる。怪我は写真にとっておくということである。医者診断書をもらっておくことも肝要である。

DVの場合、夫から暴力を避けるため行方をくらませている妻もいる。裁判では妻（原告）の住所を表示する必要があるが、実際の現在の住所地を表示してしまうと、妻の所在地が判明してしまう。このような場合には、夫婦の最後の共同住所地を表示するなどして対応することになる。また、裁判の場合、通常は当事者が法廷で証言するが、DVの場合は、法廷で夫と顔を合わせると危険な状況になるおそれがある。このような場合、裁判所が警戒体制をとってくれるが、妻が法廷に出廷しない方が安全である。妻の陳述書により暴力の状況を立証するという方法が安全であろう。



ちょっとひといき

事務局 K・K

この夏、家族で、東京ディズニーリゾートへ行った。私の一番の目的は、昨年ディズニーリゾート内に常設会場をオープンした、シルク・ドゥ・ソレイユ「ZED（ゼッド）」を観る事。そのショーに、日本人で唯一出演する稲垣正司さんを観たくて、ちょっといい席を4月に予約。密かに心待ちに。稲垣さんはバトントワリング界では超有名な人、世界大会に11回チャンピオンに輝いた経歴の持ち主。（…というのも、娘がバトンを習っているのでも、どちらかと言うと、母のテンションが高い。）会場内は幻想的で、まるで別世界に行ってしまった様。

稲垣さんのパフォーマンスは、力強く、以前大阪で世界大会を観た姿から、更に、プロとして完成されていて、思わず感動の涙が。そして、どのパフォーマーも、自分と同じ人間？と思うほどのスリリングなパフォーマーの数々。家族で非日常の世界を体感できて幸せ。ショーを作った全ての方々に感謝の拍手！！

次は、ラスベガスで観たいなあ。なんて贅沢。



八十八ヶ所巡り

その1

八十八ヶ所。言うまでもなく四国巡礼八十八ヶ所のことである。地元に住みながら、これまで1度も巡礼をしたことがなかった。前々から1度は行ってみたいと思っていたが、これまで機会がなかった。それが、この春、思い切って八十八ヶ所巡りをすることにした。夫婦2人での遍路である。但し、歩いて回る本格派ではない。車で回るドライブ遍路である。

ドライブ遍路のガイドブックはだいぶ以前に買ってある。行くと決めると白衣、輪袈裟、金剛杖^{びやくそ こんごうじょう}を買い込む。ほかに納札、経本、納経帳、御影帳、数珠など次々と買い込む。まずは形から。

回る順序であるが、やはり1番から順に88番へと回りたい。1番徳島の霊山寺から時計回りに高知、愛媛と回り、最後が香川の88番大窪寺の順である。

行程は土日を利用して1泊2日を1クールとして帰宅するコースにした。次に行く時は、前回の寺の続きから行くという行程である。礼拝の手順も覚え、お経の練習もした。

準備は万端。春3月下旬、いよいよ遍路の出発である。朝8時自宅を出発。高松中央ICから高速道路に乗り徳島方面(東)へと向かう。40分足らずで高速を降り一般道に。1番霊山寺^{りやうぜんじ}へ向かう道筋の前方に大型バスが2台見える。団体さんが大型バスで遍路をするツアーがあると聞き及んでいる。この団体が先に参拝して納経所に並ぶと大変な混雑となる。長く待たされるとなると、今日の予定のコースが回れない。

何とかこのバスの前へ出なくては。しかし、道が一車線で追い越せない。そうこうするうちに霊山寺に到着。案の定1台のバスは霊山寺の

駐車場へ。駐車場は広いがほぼ満杯。団体バスもかなり駐車している。



あいているスペースを見つけて駐車。急いで境内へ向かうが、本堂がどこかよくわからない。境内をうろついている間に、山門からまず入るという手順を思い出す。山門を探し出し、入り直す。手を清めることを思い出し、手水場^{てすいじょう}で手を清める。改めてよく見ると本堂という表示もある。落ち着け。境内は大勢の人でひしめいている。本堂や大師堂で団体さんが経をあげている。初心者遍路としては、経のあげ方もよくわからないので、団体さんについて見よう見まねで経を読む。何とか手順を尽くして参拝を終り、納経所へ。納経所は本堂の中にある。団体さんが並んでいることはなく、すいている。寺の人の会話を聞いていると、団体さんの納経は添乗員がまとめて納経所へ持ってくるらしい。団体さん用のは、まとめて別に墨書、御朱印しているようである。

ようやく納経をすませ、御影^{みかげ}を頂く。

勝手がわからず、うろたえた1番札所霊山寺であった。

初遍路 駆け足でゆく 霊山寺 (Y.O)

● ● ● イトセトラ ● ● ●

最近よく耳にする「わけあり商品」。食べ物に限らず、ホテルの部屋、洋服、化粧品や家具などが、化粧箱のくずれ、規格外やキズなどを理由に40~50%オフは当たり前前の安さで手に入ります。特に人気なのが食品のわけあり。海鮮やスイーツと多種多様。インターネットでは「わけあり食品」

事務局 T・I

だけを取り扱っているところもあります。お店や商品について、購入者がクチコミで評価しているので、参考にすれば大きなハズレもなさそうです。表に出てこなかった商品を再度生かすことができるのは、これもまたエコ？



外部の方からの投稿です

高松ウォッチング

事務局 E・O

念願の四国八十八カ所参りを主人と一緒にスタートした。巡礼の用品を人並みに色々そろえた。

いざ出発！この日は「高速道路が1000円」の初日の日。相当の混雑が予想された。お参りの手順は事前に本を読んで勉強した。

1 番札所に着く間際、主人より再確認の指示。手順を3回も読み返した。どうも頭に入らない。

山門の前で一礼 → 手をあらう → 本堂でお線香・ロウソク → お賽銭……ややこしい。

本によると特に納経所が混むらしい。納経所へは急いで走らねばと密かに心に誓った。

1 番札所に着いた。予想通りバスや車で駐車場は一杯。やっとスペースを見つけ駐車。

納経所でどれくらい待つのかわからない。参拝の手順は頭から一瞬にして吹っ飛んだ。私は車から飛び降りた。境内へ向かって駆け出す。巡礼服を着た案内の人が「こっちですよ」と声をかけてくる。私はみんなが流れて行く方向へ必死でついていった。

主人はとみると、向こうの方。車の横で、白い服をきて、青いタスキをかけて、バックを肩に……。

私は思わず、「何着てるのー、そんなことしてる場合じゃないでしょう！こっちー こっちー」と叫んだ。

主人もあわてて飛んでくる。私は右手に杖と服とバック。片方には靴（靴を脱いで上がるよう指示があった）。「早くー」といらいらしながら主人を待つ。

やっと主人がきた。主人は、よくよく周囲を見渡して

「おまえこそ何やっとなる。よー見てみー。そこは巡礼グッズを売ってるところだろうー」
「……」

初心者コースの団体客にくっついて行ったのである。私たちはまだ山門すらくぐっていないのであった。

